



神奈川の風



平成27年12月11日号

校長 吉江 明洋

< 面接試験のポイント >

3年生は進路選択の面談も終わり、例年のごとく私立高校の推薦受験を希望する生徒を対象に校長面接を行う時期となりました。

公立高校の受検者も本番では全員が面接を受けることになり、の事前準備に役立つよう、心がけるポイントを今年も載せたいと思います。

まず気をつけることは、想定される質問に対しての答えを文章に書いて覚えていると、つかえたときに次が出てこなくなりますし、面接官からすると録音テープを聞かされているようで気持ちが伝わってきません。アピールしたいポイント^{かじようがき}を箇条書きに整理して覚え、自分の気持ちを込めて話しましょう。また、公立高校では面接シートに書いた内容はしっかり受け答えができるよう確認しておきましょう。

面接は誰でも緊張するものです。日常遣い^{つか}慣れていない敬語を無理に遣わなくても、大人に対する失礼のない言葉であれば心配ありません。話すのが苦手であっても、「言葉を丁寧^{ていねい}に、簡潔^{かんけつ}に、語尾をはっきりと」そして「この学校に合格したい」という心を込めて話すことが最大のポイントです。



もう一つは「人の印象は90%は見た目を決めている」と、人間関係を研究している学者が言うように、服装、身だしなみ、態度がとても大切となります。いくら中身が良くても、だらしない印象を与えてしまえば大きなマイナスです。

「見た目だけで人を評価するな」とも言われますが、長い時間をかけてその人と付き合えるならば良さも分かりますが、5分や10分程度の短い面接時間の中では、受験生の顔つき目つきや態度物腰^{ものごし}や服装が重要な判断材料の一つになります。多くの生徒を指導してきている面接官には小手先^{こてさき}のごまかしはききません。本気でその学校に合格したいと思うなら、最善の注意をはらってその気持ちや姿勢を表現するべきなのです。

この時期になると、やはり日頃の言葉遣いやマナーの習得が大切であることを痛感します。スカートの短さや服装のだらしなさを、いつも注意されても言うことを聞かずに、平気な顔して受験直前に直していくなどもってのほかです。その日常の生活状態が人の雰囲気や価値を決めるのです。

ほとんどの生徒が、生まれて初めて「相手が決定権を持つ」という立場となってチャレンジして、結果が出れば誰のせいにもできない厳しい世界への第一歩となります。1・2年生のみなさんも3年生になってあわてないように今から心がけましょう。緊張すればするほど、うっかりと日頃の言葉や態度が出てしまう。付け焼き刃では通用しないということです。

先生方全員で、3年生の願いが叶うよう精一杯応援したいと思っています。後は君の心掛^{こころが}けと本気度しだいです。頑張りましょう。